



## NY 市場レポート

### ◀ NY 市場概況 ▶

NY 市場では、欧州主要株価や米株価先物が軟調な動きとなったことを受けて、序盤のドル円・クロス円は上値の重い動きとなった。その後は、米国債利回りが上昇したことや、ムニューシン米財務長官が「米国の利益にかなう強いドルを支持」と発言したことを受けて、ドルは主要通貨に対して堅調な動きとなった。ただ、トランプ大統領の一般教書演説や、FOMC の結果発表を控えて様子見ムードも強まりつつあり、終盤までは上値の重い動きが続いた。

### 主要な経済指標結果

1 月米消費者信頼感指数 125.4 (予想 123.0・前回 122.1⇒123.1)

コンファレンスボード（全米産業審議会）が発表した 1 月の消費者信頼感指数は、125.4（1985 年=100）となり、前月の 123.1 から 2.3 ポイント上昇し、市場予想も上回った。向こう半年の期待指数は 105.5（前月 100.8）と上昇したが、現況指数は 155.3（前月 156.5）と低下した。雇用関連では、現状で「職が豊富」との回答は 37.6%（前月 36.3%）、「就職が困難」は 16.4%（16.0%）となった。また、向こう半年では「求職が増える」との回答は 19.0%（18.9%）、「求職が減る」は 11.8%（15.9%）となった。向こう 1 年間のインフレ見通しは 4.6%（前月 4.8%）と低下した。



出所：Bloomberg

## ドル/円と米国債利回りが逆相関、今後の展開は？

通常は、金利が高ければその国の通貨も上昇する傾向がある。ドル/円相場では、日米の金利差がドル/円の強弱を見る上での一つのファクターとされている。米国の金利が日本の金利より高い状況下では、米国と日本の金利差拡大＝ドル買い、金利差縮小＝円買いと見られており、米国の金利の動きにドル/円の動きが相関となる傾向がある。

今回、米国の金利が上昇しているにもかかわらず、ドル/円が上昇していない。要因としては、米国の政治的な先行き不透明感、日本や欧州の量的緩和の縮小観測でドルが円やユーロに対して下落していることなどが挙げられる。

ただ、これまでも逆相関になるケースは幾度としてあったが、その際には修正が見られ、再び相関関係が継続となっている。今回の場合、ドルが上昇して金利の動きに寄せてくるのか、金利が低下してドル円の動きに寄せてくるのか、どちらのパターンなのか注目される。



出所：Bloomberg

## ダウ平均株価は一時 400 ドル以上の下げ

株式市場は、米長期金利が上昇傾向にあることで、企業の金利負担増が警戒されたことから、主要株価は序盤から売りが優勢となった。また、米雇用統計の発表などを控えて、一旦利益を確定させるための売りも出た。ダウ平均株価は、序盤から軟調な動きとなり、一時前日比 411 ドル安まで下落する場面もあった。



出所：Bloomberg

セクター別変動率(ダウ平均)			個別の変動率(ダウ平均銘柄)		
	セクター	変動率		銘柄	変動率
1	ヘルスケア	-2.89%	1	ユナイテッドH	-4.35%
2	石油・ガス	-2.07%	2	ファイザー	-3.13%
3	消費者サービス	-1.93%	3	マクドナルド	-2.98%
4	テクノロジー	-1.37%	4	シェブロン	-2.53%
5	素材	-0.98%	5	インテル	-2.38%

出所：データを基に SBILM が作成

## 米財務長官の発言でドル上昇も、イベントが意識されて上値の重い動き

トランプ大統領の一般教書演説や、FOMCの結果発表が意識され、やや限定的な動きとなったが、ムニューシン米財務長官が「米国の利益にかなう強いドルを支持」と発言したことを受けて、ドルは主要通貨に対して堅調な動きとなる場面もあった。ただ、その後は様子見ムードから、ドルは終盤まで上値の重い動きが続いた。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。